

Q3 数理職として仕事をしていく上で、どのような知識・能力が必要ですか。

A

一般的な社会・経済に関する知識、統計に関する知識、情報処理やプログラミングに関する知識、年金数理や保険数理に関する知識、プレゼンテーション能力、語学能力、…など、様々な知識や高度な能力があればあるほど好ましいことは確かです。ただし、仕事をすすめる上で必要となる知識や能力は、多くは実際に業務に携わる中で身につけていくものであり、採用前に全てを備えている必要はありません。

Q4 採用後に研修がありますか。

A

行政官として最低限必要な知識や技能を習得する目的で、入省直後の約3ヶ月間に初任者研修等があり、その後も、意欲があれば語学研修などを受けることができます。

厚生労働省の数理職として必要となる専門的な知識や技能に関しては、特別な研修プログラムはありませんが、通常は入省直後に、他に数理職の先輩がいる職場に配属されますので、その先輩の指導を受けながら、スキルアップを図っていくことになります。

Q5 配属先はどのように決まるのですか。先輩達は、具体的にどんなキャリアパスを経ていきますか。

A

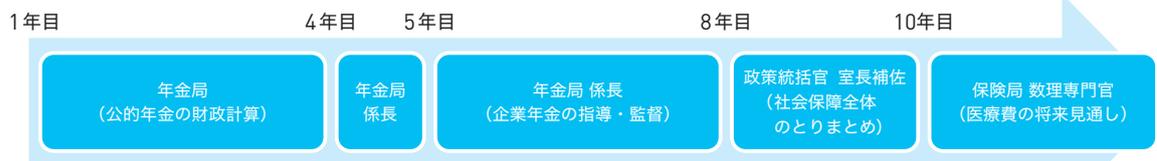
人事管理者が、毎年各職員から配属についての希望を聞き、それをできる限り尊重して配属先を決めています。以下のように、特定分野の専門性を高める者もいれば、様々な分野の業務を経験してオールラウンドプレイヤーになる者もいます。

入省10年程度のキャリアパスのモデル例

Aさん（大卒）の場合 様々な行政分野を幅広く経験



Bさん（院卒）の場合 年金・医療など社会保障中心



Cさん（大卒）の場合 他省庁や官房業務も経験

